

延命療法

文 飯塚 宏明

text by Hiroaki Iizuka

飯塚 宏明
院長

よく聞かれる質問です。詰めた金属は、セラミックスは、どのくらい持つのでしょうか?? 一番気になる質問ですね。今のところはこう答えています。

「一生ではありません」

今歯医者者がやっていることは4000年前の中国の治療と変わっていません。悪いところを取ってきれいに消毒して、良くできたニセモノを詰める。それだけのことです。その詰め物の素材の物性上がり、加工精度上がり、接着剤の強度が上がっただけです。詰め物はあくまで接着剤で付いています。

考えてみてください。上下の歯は1日4000回も5000回も衝突し、マイナス5℃から65℃くらいまでの温度変化があり(凍ったアイスクリームから熱い味噌汁まで)、奥歯1本に成人女性で60〜90kgの力がかかります。外は唾液でしめった状態、中は血液でしめった状態。この過酷な条件で、金属なりセラミックを接着します。この状態で10年20年。どんなに優れた接着剤でも、必ず劣化します。必ず端のところから接着が壊れていきます。ここが今の歯科治療の限界だと思います。今の歯科治療は歯を元に戻すことは出来

ません。良くできたニセモノを入れて歯の寿命を先に送ってあげる。延命療法が現在の歯科治療です。

2007年に東京理科大学と大阪大学の共同研究グループが、歯の胚細胞から歯を100%再生することに成功し、ネイチャー誌に掲載されました。これを受け、文部科学省科学技術政策研究所は2019年には患者の細胞から作成した臓器を移植できるという発表をしています。自分の細胞から歯の芽が培養できて、歯を失った骨の中に無菌的に埋めてあげると、自ら神経と血管を拾って歯が生えてきます。自分の遺伝子から免疫的にも形態的にも安定した歯が生えてくる再生療法。これが根治療法だと思っています。

残念ながらこの後の報告は2011年を最後に見つかりませんでした。つまり、わからない頭の固い倫理委員会が止めているかなと思います。

現在の治療の目的は、その再生治療が一般に広がるまでの間、どれだけ快適に歯とそれを支える骨を残すかにあると思います。

神経を取ってある歯と取っていない歯、どちらが長持ちするでしょう。それは神経がある歯です。神経があつて、詰

め物をしてある歯と詰め物をしていない歯、どちらが長持ちするでしょう。それは詰め物をしていない、削っていない歯です。

簡単なことです。まずは削らないようにするのが一番大切です。良くでき詰めるより、詰めないように、まずは予防のために歯医者さんにかかられてはいいかがでしょうか?

Profile

1959年 神奈川県小田原市の米屋の長男に生まれる
1985年 日本歯科大学歯学部卒業
1988年 バイクで通勤中トラックと衝突し第1頸椎及び右手首粉砕骨折、絶対安静6カ月の入院生活を送る～ 医療従事者でありながらベッドの上で何もできない自分に出会い、これがきっかけで身体全体を考えるようになる～
1990年 千代田区神田神保町に「飯塚歯科」開設
趣味：ダイビングもうじき800本、60歳でサーフィン始めて毎週通う。
音楽：ボサノバ-セルジオメンデス&ブラジル66、JAZZ-Idea6、J-POP-中森明菜



飯塚歯科ホームページ

https://aidental-iizuka.com

